



IB教育特集 第5号

正解のない時代を、ともに創り、ともに楽しむ 未来は「予測」するものではなく、「創造」するもの



全5回にわたりお届けしてきた本通信も、今回が最終回となります。国際バカロレア (IB) 教育とは、単なる学習メソッドの導入ではありません。それは、生徒、保護者、そして地域が手を取り合い、「学びの定義」をアップデートすることです。今、世界は目まぐるしく変化しています。昨日までの正解が、明日には通用しないかもしれません。しかし、だからこそ私たちはワクワクしています。なぜなら、IBを通じて私たちが手に入れることができるのは、知識の量ではなく、「問いを立て、自ら道を切り拓く力」だからです。

1. 【生徒のみなさんへ】学びの「ハンドル」を握るのは君だ！

IBの学びが本格的に始まると、これまで以上に「君はどう思う?」「君ならどう解決する?」と問いかけられる場面が増えます。最初は戸惑うかもしれませんが、IBの主役は先生ではなく、生徒である君たち自身です。教科書にある答えを覚えるだけでなく、自分の興味があることをトコトン突き詰めてください。これからの社会で求められるのは、誰かが用意した席に座ることではなく、自ら椅子を作り、新しい場所を切り拓く力です。君たちの知的好奇心は、世界をより良くするエネルギーになります。失敗を恐れず、「挑戦する人 (Risk-taker)」として、自分の可能性を信じ抜いてください。

2. 【保護者の皆様へ】「教える」から「並走する」パートナーへ

IB教育を受ける子どもたちは、時に正解のない問いに悩み、立ち止まることがあります。そんな時、保護者の皆様をお願いしたいのは、答えを先回りして教えることではなく、良き聞き手 (リスナー) になっていただくことです。「今日はどんな発見があった?」「どうしてそう思ったの?」という日常の何気ない問いかけが、子どもの思考を深める最高の肥料になります。親も子も「共に学ぶ」姿勢こそが、IBが目指す「生涯学習者」への第一歩です。

3. 【地域の皆様へ】子どもたちの「生きた教科書」になってください！

IB教育では、学びの舞台は教室から地域へと広がります。生徒たちが地域の課題を見つけ、解決策を提案するために、皆様にインタビューをしたり、アドバイスを求めたりすることがあるかもしれません。その時は、ぜひ皆様の仕事の経験や、この街への想いを語ってください。プロの視点や地域の歴史に触れることで、子どもたちの学びは一気にリアルなものになります。子どもたちが地域を愛し、貢献する喜びを知るためには、皆様の支えが不可欠です。

私たちが目指す「学びのコミュニティ」

IB教育 (MYP) の導入は、単なる授業スタイルの変更ではありません。生徒・保護者・地域・学校が「より良い世界を作る」という共通の目標に向かって繋がる、新しいコミュニティの形への挑戦です。誰一人欠けても、この挑戦は完成しません。一人ひとりが「探究者」として、この街から世界へ、そして未来へと続く新しい学びの物語を共に作っていきましょう。